

第8回 FrontPageから 使うFlash生成 サービス



WE SPEAK SOAP

XML ビジネスとテクノロジーの新たな変革 ウェブサービス

篠原 慶

今回は、Flash アニメーションを生成し、自分のウェブページに追加できるウェブサービス「DynamicFlash」を、Office XPファミリーの1つであるFrontPage 2002から使う方法を紹介する。

Flash アニメーションを生成する ウェブサービス

Flashは、マクロメディアが開発したアニメーションの表示・作成の技術だ。Flashで作成したアニメーションは、拡大・変形による画像の劣化がなく、かつ表示も速いといった特徴があり、ウインドウズやマッキントッシュであればプラグインをインストールするだけでウェブブラウザ上に表

示できる。最近ではウェブページ一面に利用されてユーザーインターフェイスとして利用されるケースも増えており、活躍の範囲も急速に広がっている。

このFlashアニメーションを簡単に生成するウェブサービスが提供されている。機能は限定されているものの、これを利用することで、Flashアニメーションを簡単に自分のウェブサイト追加できる。

今回は、Flashアニメーションの生成ウ

ェブサービス「DynamicFlash」を利用した、FrontPage 2002のアドインプログラムを紹介する。

「DynamicFlash」は、ウェブ技術にかかわるソリューションを提供するファイアーライフ [URL](http://www.firelife.eu.com) が無償で提供するウェブサービスだ(図1)。アニメーションの大きさや表示する文字列などを引数に、HTML形式で結果を返すので、これをHTMLドキュメントに貼り付ければ、即Flashアニメーシ

サンプルプログラムの実行に必要なもの

事前にインストールしておくもの

- Office XPまたはFrontPage 2002
- Office XP Web Services Toolkit 2.0

[URL](http://www.microsoft.com/japan/office/developer/webservices/download.asp) <http://www.microsoft.com/japan/office/developer/webservices/download.asp>

利用するウェブサービスと情報

- **ウェブサービス: DynamicFlash**

[URL](http://www.firelife.eu.com/dynamicflash/dynamicflash.aspx?wsdl) <http://www.firelife.eu.com/dynamicflash/dynamicflash.aspx?wsdl>

- **サービスについての情報(メソッドの説明)**

[URL](http://www.firelife.eu.com/dynamicflash/dynamicflash.aspx?op=GenerateDynamicFlashHtml) <http://www.firelife.eu.com/dynamicflash/dynamicflash.aspx?op=GenerateDynamicFlashHtml>

今回のサンプルプログラム

[URL](http://internet.impress.co.jp/im/xmlwebservices/) <http://internet.impress.co.jp/im/xmlwebservices/>



図1 ファイアーライフのウェブサイト。図からはわかりにくいですが、ページにFlashアニメーションが利用されている



図2 サンプルプログラムの使い方

が表示される。できることは少ないが、仕様がシンプルな分、非常に使いやすなのが特徴だ。

ウェブサービスを使った サンプルプログラム

まずは、実際にサンプルプログラムを使って、FrontPage 2002とウェブサービスの連携を体験してみよう(図2)。

このサンプルプログラムの実行は、Office XP(SP3以降) およびFrontPage 2002、Office XP Web Services Toolkit 2.0(WSTK)がインストールされていることが前提なので、事前に確認すること。

今回は、これまでのサンプルプログラムに比べて、実行するための準備に若干手間がかかる。したがって、ここではまず設定された状態であることを前提に、プログラムの一連の動作を説明し、実行のための設定は「サンプルプログラム実行のための準備と設定」で後述する。

サンプルプログラムを設定後、FrontPage 2002を実行する。

メニューの「DynamicFlash」をクリック

すると、「DynamicFlashの設定」ダイアログボックスが表示される。

ダイアログボックスの「タイプ」コンボボックスでは、1か2のいずれかを選択する。1は「名前を登録してくれてありがとう」といった場面用の、2は「ショッピングカート処理の合計を表示」といった場面用のFlashアニメーションだ(図3)。

「横幅」「縦幅」のテキストボックスでは、任意のピクセルで数値を指定する。デフォルトの場合、横幅は550ピクセル、縦幅は400ピクセルになる。

「背景色」テキストボックスでは、任意の色をRGBで指定する。RGBは赤、緑、青の順に00～FFの16進数2文字、計6文字で色を表現する。右横にある「選択」ボタンをクリックすると、「色の選択」ダイアログボックスが開き、このダイアログボックスから簡単に色を指定できる。

「テキスト文字列」テキストボックスでは、Flash上に表示する文字列を指定する。ここで指定できるのは、半角英数字のみ。残念ながら日本語などの2バイト文字は使えないので注意してほしい。

「メニュー」チェックボックスでは、Flashの組み込みメニューを表示するかどうかを指定する。「ループ」チェックボックスでは、アニメーションを繰り返し実行するかどうかを指定する。

それぞれに何らかの値を選択し、「生成」ボタンをクリックしてみよう。正常にFlashが生成されれば、現在のHTMLファイル上にFlashアニメーションが表示されるはずだ。もちろん、必要に応じて位置を変更することもできるし、そのまま保存すれば、ウェブ上でこのFlashアニメーションが表示される(図4)。

いったん、「DynamicFlashの設定」ダイアログボックスを終了するには、「ダイアログボックス下側の「閉じる」ボタンをクリックする。これで、「DynamicFlashの設定」ダイアログボックスが閉じられる。

アドインを止めたいときは、まずメニュー項目を削除する。「ツール」メニューから「マクロ」>「マクロ」を選択する。「マクロ」ダイアログボックスのマクロ名リストから「menu_close」を選択し、「実行」ボタンをクリックすると、FrontPage2002のメニュー

一の一番右端にあった[DynamicFlash]が削除される。

そして、[ツール]メニューから[マクロ]> [Visual Basic Editor]を選択してVisual Basic Editorを開く。左上にある[プロジェクト]ウィンドウで DF_ModuleMain を選択し、右クリックで表示されるメニューから DF_ModuleMainの解放]をクリックする。続けて、DF_UserFormMain、DF_UserFormColorDlg、clsws_DynamicFlashWebServiceについても同様の操作で解放する。

ここで、Visual Basic Editorを閉じれば、FrontPage 2002から[DynamicFlash]が取り除かれているはずだ。

サンプルプログラム実行のための準備と設定

今回のサンプルプログラムが含まれているファイル(dflash.zip)を、本誌のサポートサイトからダウンロードする。そして、任意の場所に解凍する。ファイルには次の5つのファイルが含まれている。

- DF_ModuleMain.bas(標準モジュール)
- DF_UserFormMain.fr[Dynamic Flashの設定]メインフォーム定義)
- DF_UserFormMain.frx
(メインフォームのリソースファイル)
- DF_UserFormColorDlg.frm
([色の選択] フォーム定義)
- DF_UserFormColorDlg.frx
(色選択フォームのリソースファイル)

FrontPage 2002を起動して、[ツール]メニューから[マクロ]> [Visual Basic Editor]を選択して[Visual Basic Editor]を開く。

ここで解凍しておいたファイルをプロジェクトにインポートする。まず、メニューから[ファイル]> [ファイルのインポート]を選択し、[ファイルのインポート]ダイアログボックスから、解凍したファイルを1つ選択して[OK]ボタンをクリックする。3つのファイル(basファイルとfrmファイル)について、



図3 DynamicFlash で選択できるFlashのタイプは2種類。タイプ1は登録ページに適したもの(左)タイプ2はショッピングサイトの会計ページに適したもの(右)



図4 作成されたFlashアニメーションをウェブブラウザで表示したところ

FrontPageでのマクロ設定の注意点

Excelのマクロは、XLSやXLAのファイル単位でマクロを管理してアクセスすることができたが、FrontPageでは、Microsoft FrontPage.fpmと呼ばれる1つのマクロにのみアクセスできる仕様になっている。

FrontPageのマクロを配布しなければならない場合、Microsoft FrontPage.fpmを配布することになるが、既存のMicrosoft FrontPage.fpmにマクロが記述されると上書きされてしまうことになるので、注意が必要だ。

繰り返しインポートを行(図5)。

次に、ウェブサービスのWSDLを読み込む。WSTKをインストールすると、[ツール]メニューに[Web Service References]という項目が追加されているはずだ(図6)。もしなければ、WSTKがインストールされているかどうかを確認してみよう。

[Web Service References]ダイアログボックスが表示されるので、WSDLのURLを左下のウェブサービスURLに入力し、[検索]ボタンをクリックする。

<http://www.firelife.eu.com/dynamicflash/dynamicflash.asmx?WSDL>

すると、右側の[検索結果]で[DynamicFlashWebService]が表示されるはずだ。

[DynamicFlashWebService]にチェックを付けて、右下の[追加]ボタンをクリックする(図7)。

これで、新たに追加されたウェブサービス「DynamicFlashWebService」が、クラスモジュールとして登録される。プログラムを組むうえで、これらのファイルを意識する必要はなく、今後プログラム内でウエ



ブサービス「DynamicFlashWebService」を使うにはclsws_DynamicFlashWebServicオブジェクトを呼び出して、メソッドを実行させるだけでよい。ここで利用するウェブサービスでは、ただ1つとなるwsm_GenerateDynamicFlashHtmlメソッドが提供されている。ここで、一度Visual Basic Editorを閉じておく。

次に、「DynamicFlash」を使いやすくするためのメニュー項目を追加しよう。[ツール]メニューから[マクロ]>[マクロ]を選択する。[マクロ]ダイアログボックスのマクロ名リストから menu_open を選択して [実行] ボタンをクリックすると、FrontPage 2002 のメニューの一番右端に [DynamicFlash] が追加される。これで準備は完了だ。

自分でプログラムを作る場合には、この後にフォームの作成とコーディングが続くが、この部分についてはサンプルプログラムを参考してほしい。

まずは身近なものから ウェブサービス化

今回紹介した「DynamicFlash」は、機能的に制限が大きく、必ずしも実用的とは言えないが、手軽にFlashアニメーションを使えるようにした機能をウェブサービスという手段で提供した点がユニークであり、素晴らしいアイデアだと言える。

このようなウェブサービスを提供することは、新たなビジネスチャンスのきっかけになるかもしれない。たとえば、もう少し多様な機能を用意し、誰もが使いたくなるようなFlashアニメーションを生成できることが前提になるが、広告やリンクを埋め込んだ形でFlashアニメーションを提供してしまうことも考えられるだろう。今回紹介したウェブサービスは、あくまでもサンプルとしての提供であり、本格的に取り組む気になれば、相当なものを提供することもできるはずだ。

まずは、身近なアプリケーションの機能をとりあえずウェブサービスから始めてみ

るのもおもしろい。サービスがあれば、それを予想もしない方法で活用するユーザーが現れる可能性もあるからだ。

まだまだウェブサービスという技術の周辺には、多くのビジネスチャンスが転がっている。それを拾い上げるつもりで、ウ

ェブサービスを利用する側から、ウェブサービスを提供する側にまわってみるのはいかがだろうか。

ファイヤーライフ

URL <http://www.firelife.eu.com/>



図5
[ファイルのインポート]ダイアログボックス。ファイル自体は5つあるが、実際に読み込む必要があるのはbasファイルと2つのfrmファイルだけだ

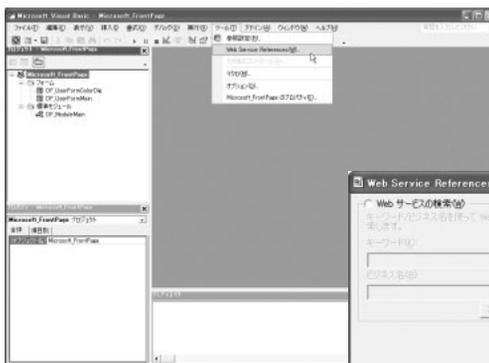


図6
[ツール]メニューに追加された Web Service Reference を選択する

図7
利用するウェブサービスを選択し、クラスモジュールとして登録する



.NETテクノロジー 9月号 好評発売中
特集:「外なる敵、内なる敵から社内システムを守る!」
Windows Server 2003セキュリティ対策
定価1,400円 全国有名書店で発売中

URL <http://dotnet.impress.co.jp/>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp